

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



初代様遺品（摩耶分教会所蔵）

をやの思いを にをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

# 丹精丹精

二月二十一日(土)大教会の月次祭に合わせて「学生層育成者講習会」が開催されました。これは学生層育成の大切さを啓蒙する上で、大教会で毎年開催されているもので、今回は、本部学生担当委員会・育成部委員の廣正之先生を講師としてお迎えしました。

先生は、過去二十五年間携わっている学生生徒修養会(学修)を中心にお話ください、その素晴らしさは、そこに信仰がいきづいているから、をやの思いがいっぱいかけられ、またこもっているから、では非学生を本部の行事へ送り出してもらいたいと述べられました。

また、笠岡初代会長・上原さんと先生のビデオ編集に携わった時に聞かれた話、「笠岡の道は歩いて歩いてついた道」を引用され、学生層の育成・丹誠も、月に一度は声をかけてつないでつないで若い人達に信仰をお伝え頂きたいとお話下さいました。

## ☆平成16年度天理教学生担当委員会活動方針

「学生一人ひとりに

月に一度は声をかけよう！」

(学生担当委員会委員長 吉岡誠一郎)

# おたすけ実修会

二月二十二日(日)大教会に於いて、にをいかけ、

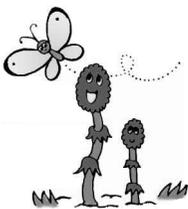
おたすけ実修会の要員研修会が開催された。昨年は、「おかきさげ」をテーマに各教会で実施された実修会だが、今年は前後半二回実施される予定で、今回はその一回目、「おつとめの理合い」がテーマに取り上げられた。六時四十五分の朝づとめ集合、要員が揃って賑やかに朝づとめをつとめ、朝食を頂いた後、八時から大教会長様より、「おつとめの理合い」についての講話を頂いた。難しいテーマだが、大教会長様の諭えを用いた分かり易い説明で、親神様の御守護について、そして「なぜ、おつとめをしているのか」についてお話下さいました。各教会に派遣され、その教会の信者さん達に話をしなければならぬ要員は、皆真剣に耳を傾けていた。

約一時間の講話の後は、「おさづけの取り次ぎ」について、高屋分教会長、島根分教会長のお二人より感話を頂いた。喜ばれたおさづけ、失敗したおたすけ等、実際の生々しい体験談はやはり聞く者の興味を引き、自分もやらせてもらわねばという気持ちにさせられる。要員は教会長以外の者も多

く、仕事を持ちながら道を通っている者もたくさんいる。普段忘れがちなよふぼくとしての原点を改めて思い出させて頂けたのではないかと思う。

昨年からは笠岡部内全教会で実施されているにをいかけ・おたすけ実修会は、それぞれの教会に繋がるよふぼく信者さん達を大教会より直接丹精下さる大切な行事であります、その実修会に赴く要員を育てるこの要員研修会も、同様に重い意味を持っているのではないかと思う。要員には、各教会で中心的な役割を担っている人達を選ばれており、その人達の丹精、成人こそが教会内容の充実に直結していると思うからである。教会に派遣される要員は、必要上真剣に研修会を受講し、又今年のテーマ「おつとめの理合い」についても自分なりに勉強し、又教会に赴く上には、それなりの理作りもして行くという、要員一人一人の成人が促されることに大きな意義があるのではないかと思う。私自身も要員の一人として届かぬながらも真剣につとめさせて頂きたいと思う。

(布教部員 武内清明)



# 年祭活動の振り返り

立教百六十七年教会長講習会が去る二月二十六日、二十七日の一泊二日、笠岡詰所を会場に開催され、九十八名が受講しました。身上、高齢の為に欠席を余儀なくされた方もありましたが、当日葬儀が三ヶ所で執り行われ、十一名の方が急きよ欠席となりました。

開講にあたり大教会長様は年祭活動二年目の重要性を強調され、『若い人はそれなりに勢いをもつてつとめることも出来るけれど、年を重ね、足腰も痛くなって、にをいがけに出るのがむづかしい、出れないから仕方がないと云うのでなく、何か出来ることはないか、教会に足を運んでもらえない用木信者、その子供達、お孫さんに手紙なり、電話なり、しっかり声を掛けて、そういう人達に心を持ってもらえるようにすることは出来ると思います。動きにくい中でも成人の思いをもって、どうでもこうでもやらせて頂くという気持ちで年祭を迎えるまで持ち続けて貰いたい。』又、『教会の姿は夫々違うのであるから同じ歩みをする必要はない。夫々の教会に出来る働きをさせて頂く、それが実践項目につながっていくならば素晴らしい

ことだと思えます。』更に、『今は結果としては姿は表れないかも知れないが、今出来る精いっぱいをつとめて頂いたならば、必ず百二十年祭の旬には、こういう結構な姿を見せて頂いたという御守護を頂けるという旬である』と、お話し下さいました。

一日目第一講は、本部長・布教部長 永尾一夫先生の『時旬の理』をテーマに講話があり、教祖が現身をおかくしになる直前の四十五日間の心に残るおさしづを通して、教祖ご年祭の意義を説かれ、三年千日の仕切りについて、わずか千日の道を通れというのや、千日の道がむづかしいのや“三年千日徹底して通れば、五十年の道に同じに受取る。又、『人をたすけさせて頂く道は遊び半分、片手間ついで仕事では出来ん、余力をもってすることではない。この旬、教祖お一人のひながたの道から始まって百六十有余年でこの道、信仰するからには、陽気ぐらしを望むからには、たとえ遅々たる歩みであっても、やらんならんことはやらんならん。誰がやるねん。お互い自らやらんならん。常々なか／＼出来ないからこそ、ふだんやりにくからこそ、届かないからこそ、今の時旬の理を素直に受けて進ませてもらう。その心定めに必ず楽しみを明日の道が見えてくる。固くそう信じて、その心定め完遂に向けて徹底して、ひたむきにこつ／＼と道を通らせて頂くことが年祭活動だ

と思えます。』最後に、『にをいがけ・おたすけは私達の命である。教団にとって、ひとつ一つの教会にとって、これは命である。』と、『同じ苦勞をするならば、知らず／＼のうちに因縁にたまされた陰気な苦勞をするよりもめい／＼この旬にしっかりと心を定めて、ひながたの道の明かるい苦勞に置きかえて、とにかく残り二年間ひたむきに通らせて頂きたい』と締め括られました。先生の迫力ある講話に、年祭活動に対する新たな決意を強く感じたのは私一人ではなかったと思います。

二日目第二講は女性教会長として永年お通りになられた旭中央分教会の前会長 岡本照子先生、八十一才の現在も毎日おたすけに歩かれ、教人の人におさづけの取次ぎをされている。どん／＼素晴らしいご守護を頂かれています。お道の信仰に絶対的な信念を持ち、教祖にもたれきった日々を歩まれている先生の貴重な、数々のおたすけの体験を聞かせて頂きました。又、『教祖は八十歳を過ぎられてから大勢の先生方を育てられた。私もこれから、これからやらせてもらわないといけないと思っている。』岡本先生のこの言葉に、『あの元氣を見習って、自分も頑張つてつとめたい』と、たすけ一条へのひたむきな情熱に参加者一同奮起を促されたようでした。

アンケートに依る今回の講習会の感想では『自分を見つめなおすチャンスを取り大変良かった』

『教祖年祭活動の旬に勉強させて頂きました。実動の糧にさせて頂きたい。』又、『ねりあいのテーマが多すぎた。誰もが発言出来る内容に』、来年度の少年会コーナーに対しては『道の後継者の育成の上について熱を感じさせて頂き良かった』の声も複数ありました。

今回の講習会は、冒頭にも申し述べました理由で参加者がそれだけ少なかつたことは残念でしたが、来年は全教会長の参加を目標に、又、講習会の内容充実の上に更なる努力を重ねさせて頂きたいと思えます。ありがとうございます。

(布教部長 佐藤 道 孝)

## 五日隊

甲井分教会 山田 佳余子

教祖百二十年祭三年千日の真っ只中というのに、これといって特別な事をさせて頂いているわけではありません。一時は、にほいがけやチャラン配りに出掛けたこともありましたが、昨年十二月に入ってすぐ自分の不注意で怪我をしてしまったからは、何故か気が抜けてしまった感があり、完治した後もなかなかそういう気にはなれませんでした。



## 第二次直属ひのきしん五日隊

自 立教167年1月27日  
至 立教167年1月31日

した。それでも心の底には、この旬に何かさせて頂かないと・という気持ちもありました。そんな時、義父である会長から五日隊の話があり、喜んでその話を受けさせてもらったのです。主婦が五日間家を空けると大変ですが、家に居る主人の食事や洗濯などは全て義母と義姉が快く引き受けてくれたので、一月二十六日、五日分の着替えや作業用の靴、義母が用意してくれていた栄養ドリンクやカイロを入れた大荷物を本部団参のバスに積んで出発しました。

箒の方の都合が悪くなり、担当の先生が、女の一人では淋しいだろうと、急ぎよ参拝に来られていた方に頼んで残っていただいたと聞き、大変感謝しました。

翌日から、午前九時より十一時までと、午後は一時半より三時半までの合計四時間、土持ちひのきしんが始まりました。初日から余り張り切りすぎると、五日間持たないとの話を聞き、土は少ない目にしてバテない程度に数をこなそうと考えました。大体、午前・午後合わせて二十数回往復させて頂きました。ひのきしん中はずっと教祖百二十年祭の歌などのお道の歌が流れていましたが、繰り返して流れるので終いには知らぬ間に口ずさん

春季大祭の参拝が済んで、夜になってから笠岡詰所に入りました。事務所で聞くと、女性私は私を含め二名だけとのこと。それも、本当は来られる

含め二名だけとのこと。それも、本当は来られる

でしまっているほどでした。しかし、お蔭様で言はば単純作業である土持も陽気に勤めさせていただけました。朝夕は修養科生と共に勤めを勤め、夕勤め後は感話や慰労の会食もありました。他系統の教会から嫁いだため上級教会以外には殆んど知り合いがおらず、最初は皆さんとお話することもありませんでしたが、だんだんと気軽に声を掛けてもらえるようになり、五日間楽しく過ごすことが出来ました。

年祭のこの大事な旬に、おちばの理を頂く機会を与えて頂いた事は、私にとって大変貴重な経験となりました。今は又、元の生活に戻りましたが、残る二年間を少しでも自分なりに意義あるものになりたいと思っています。

# 談話室



## またかと勇める

湯田原分教会長 高木 昭 祥

年月が過ぎ去り、振り返ってみれば早いもので、五回目の教養掛の御用を努めさせて頂くことにな

りました。何回努めさせて頂いても、初めてのような気持ちでのスタートです。おちばに帰らせて頂いた日は、雪景色の寒い日でした。次の日から、修養科生の方々の生活が始まり、寒い日が続いていきましたが、十日位過ぎて行き帰りの道中、梅の花が咲いているのを見つけ、まだまだ寒い寒いと思っても自然は春のおとつれを敏感に感じ取っているのです。その梅の花を見ては、寒さに負けず頑張ろうと思いました。

おちばでの生活は、不思議に同じ様ないんねんの者が寄せられて、ご守護を下せることがよく分かり、修養科生を通して自分自身の因縁を自覚させて頂けることが感じられました。修養科生が、身上で病院に行かれるので、送り迎えの世話をさせて頂く中、心の持ち方、通り方を話しながらも、自分自身にも因縁があるのだと心で思っ居りました。

違う環境で育ち、因縁も違うし、考え方も違う者が、共同生活する中、皆、八つの埃を持っているが、その中でも、この度はお互い特にこうまんの埃があると言いました。因縁でしょう。人の言われたことや直さなければならぬ癖がたっぷりもあってなかなか直せませんから、この埃を少しづつでも祓うよう努めさせて頂きます。

また、毎日、朝早く起きひのきしんをさせて頂きますが、時には、続けることの難しさから自分

にとって苦手なことや、成果が生まれない時、都合の悪いことの繰り返しの時、どうしても怠け心横着心が顔をもたげて来ることがあります。

ある日、主任先生が読まれる本の中に勇むことについて拝読されました。以前、勇まれない時には、ひのきしんをさせて頂き動いて勇むのだと聞かせて頂いておりましたが、なかなか勇み心もたれないまま過ごしておりましたが、その本には、勇むのは「マ・田・カ」と書くから、「またか、またか」と思ってしまう事が勇む事であると言われました。「なるほど」と思い、これからは、何をしても勇まして頂けるのではないかと言う気がしました。おつくしもまたかまたかと言ってする、おつとめもまたかまたかと勇めるし、またかまたかは、何にでも当てはめられるので、なかなか良い結果が見えない時、いずむ時、勇まれない時にも、またかまたかと繰り返ししていることが勇んでいるのだと心して通らせて頂けそうです。

そして、本年は教祖百二十年祭実働の年、にをいがけをさせて頂く時も、またかまたかと勇んで通らせて頂くこうと思わせて頂きました。



## 天理教との出会い

東福山分教会 中村 佳弘

私は現在結構にお連れ通り頂いておりますが、まだ、このお道と出会いましてから十ヶ月程であります。この間様々な出会いを通して修養させて頂きましたが、お道に初めてふれました事について話させて頂きます。

以前、私は長年付きあった彼女がいたのですが、十年程前に不治の病により彼女を失いました。そうした事があり、生きる気が失せ、自殺を図るも死に切れず、途方に暮れ、毎日を送っております。こうした中にも幸いに就職できたのですが、会社が倒産するなどして長続きはしませんでした。

そして一つの転機となった事が、前に勤めていた会社の突然の倒産であります。職を探すが決らず、自暴自棄になり「もうどうなってもいい。」との思いから自転車に旅に出ました。

行く当てもなく、ただ西へ西へとペダルをこぎ続けました。道中、手荷物がなくなり、福山にいた時分には、着のみのままの状態でした。そこで出くわしたある宗教団体の方に尋ねた処「相談は一切お断りしています。」と言われ、宗教に対してマイナスの不信感を抱きました。

そして更にペダルを進め、三原市に入り、駅前を通りかかった時、天理教というハッピーの文字が目に入り、その場は通り過ぎました。

しかし、何日ものろくに食事を摂っておらず、心身共に限界がきていました。ちょっとした目まいから、先程の天理教の言葉が頭をよぎり、気がついた時には駅前にひき返してしまいました。

そこでハッピーを着た方に「休む所はないですか」と聞いた処、『私の家へどうぞお越し下さい』と言われ、あ然とする間もなく、ただ後ろをついて家の方へ案内されました。

家に着きますと、奥さん、子供さんが迎えて下さり、休ませてもらいました。あの時出迎えて下さった笑顔が何かしら印象に残り、不思議な出会いの中にも何かしら安堵感を覚えたように思います。

偶然にも翌日は講社祭があり、一緒に参拝させてもらいました。その折、会長さんより初めて、天理教の話聞かせてもらい又、修養科をすすめて下さいました。しかし初めて天理教を知り、何も分からない中で勧めて下さっても、余計に心配と不安が募り、返事ができませんでした。

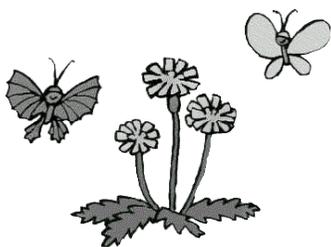
その後、二十一日大教会の月次祭に参拝しました。そして、教会関係の方に話を聞かしてもらい、その内に何とも言えない気持ち、以前知っていた

のかという親しみ、やさしさを感じ、彼女と過した日々を思い出させてもらい、自分を取り戻せるのではないかという気持ちになりました。

この時点で修養科に入る決心が大方定まり、話し合いを進める内に二十四日の朝「行かせてもらいます」と返事をさせて頂き、修養科に入りました。入信よりわずか六日間の出来事でありました。

修了後より続いて二ヶ月ひのきしん隊、検定講習前期と、おちばで六ヶ月余り生活させて頂き、信じ合える友達との出会い、お世話になりました先生方を通して、自然と心がみがかれ、前にくらべると少しは素直な心になってきたと感じさせて頂きます。

これからの目標として「感謝の気持ち」、「素直な心」を大切にして日々を通らせて頂くと思っております。今後もいろいろと御指導、ご鞭撻の程よろしく申し上げます。ありがとうございました。



## 神 殿 で

陶山分教会長夫人 上原 順子

昨年末の本部月次祭での事。寝不足気味だったので、少しボーとしていた私のそばに、後の方から人を分けてきて、中年の男の人が坐りました。やがてかぐらづとめが始まると、その人は、身をのり出すようにして、大声で唱和を始めました。あまりの声に、まわりの人達もびっくり、すぐそばの私も、眠気など吹きとんで、チラ／＼とその人の様子を窺いながら唱和していました。

ふと気がつきました。その人の隣に、教会本部のハッピーを着た青年が坐っています。どうやら保安係の人のようです。彼は、この元気のいい男の人に付いてきた様子で、この人から視線を離さず、あまりにオーバーな動作をすると、そっと背中をたたいて注意しています。

ま近かにこの両者の様子を見ている私に、いろんな想像が浮かんできました。何が起こるか予測のつかぬ昨今の世相です。何らかの情報が入って、この保安係の青年は、その男の人の挙動を、端的に言えば見張り、何かあれば静止するようにと言われて付いているのではないか。そんなことを思いつつ、額の汗をぬぐいながら身体を揺さぶって声を限りに唱和している男の人との両者を見てい

ました。

やがて、十二下りを終えて、これから神殿講話の時はどうなるのかな、と少々案じかけた私に、突然、その男の人が話しかけてきました。私のハッピーを見て懐しいと言うのです。修養科の時の担任が笠岡のT先生だったとの事で、先生が亡くなられたことも知っていました。そして、埼玉から自転車で帰って来て、おつとめの直前に着いたことなど、明るく話し、隣の保安係の青年は、本部でひのきしん中の上級の若先生だと紹介してくれました。

その青年は、先程までの緊張した表情とは全く違って、はにかんだ笑顔で会釈し、その人を促して立ちました。私は自分の想像が間違っていたことを内心大いに恥じ、かつ大いに喜んで、出ていく二人を見送りました。

考えてみれば、車で、楽々でおぢばがえりをし、決まったコースを行くように月次祭に参拝している私の目に、その人の行為が常識外れに映ったのは、当たり前前でしょう。確かに、囲りの人々にとっては少々迷惑だったかも知れませんが、もしその理由を知ったら、うなずく人達も多いのではないかと思います。

かつて、徒歩で何日もかけておぢばに帰った人達は、やはりあの人のように、全身で喜びを表現し、無我夢中でおつとめに没頭したことでしょう。貴重な出会いに感謝しつつ、帰路につきました。

## ・原・稿・募・集・

### 内 容

- ①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、  
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

### 字 数

1000字前後(800字~1200字)  
題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。  
俳句等は1句からでも結構です。

### 寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

F A X : 0 8 6 5 - 6 6 - 1 3 1 4

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



## 二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会上原理一慎んで申し上げます

親神様の一列子供かわいい一条の親心溢れる御守護とお導きを頂くままに今は立春を過ぎ春一番が吹き荒れて肌寒い中にも春の訪れを感じられる季節を迎え心が凍るような事件が頻発する世の中にあっても心に暖かさをお与え頂いて日々は結構に恙なくお連れ通り頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は朝夕に御礼申し上げると共に喜び心のまに／＼ご恩報じを念じ痛ましい事件や事故が一日も早く無くなることを願いつつ身近なところからにいがけおたすけにと勤め励ませて頂いております その中にも今日の吉日はこれの大教会の二月の月次祭を執り行なう定めの日柄でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び心も一人に明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には今日の日を楽しく陽気に寄り集い同じ思いに伏し拝み共に声高らかにお歌を唱和する皆の真実の状を御覧下さいます親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は学生層育成者講習会を開催させて頂きます 大人に成りきれない大人が増えて悲惨な事件が多発している現代学校教育に頼り切りにせず親自らが率先して育成に力を注いで行く所存でございます 又せっかく医学や経済が発展してもそれを喜ぶことが出来ない心に徳を失っている現代少しでも心に徳を積ませて頂きたいものとしっかりとひながたを見つめ欲の心を捨て去ってたすけ一条のひながたを辿らせて頂く覚悟でございます 何卒親神様には皆の真実の心定めをお受け取り下さいまして万たすけの上にも更なる自由の御守護を賜り世界中の人々がたすけ一条の喜びに目覚めてお望み下さる陽気づくめの生活に一日も早く立て替わりますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

## こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「足」、撰六十一句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

佳詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子

野ぼたんに足をとどめて講社祭

佳詠 芳阪布教所長夫人 杉原 優子

白足袋が揃っておどる 月次祭

▼呉市・東濱十三雄さん(福順分教会長)よりの寄稿です。

## 病喜録のうた

天命と只諦めるその前に

今生きている 此れも天命

血圧も下がったようでも 髪つんで

今年二度目の風呂へ入ろう

目はかすみ 白髪増しても心舞う

老いてゆくのも 成長の道



実践項目集計	立教166年	立教167年
	(年間)	(1月)
百万軒にをいがけ	803,132軒	63,403軒
おさづけのお取次	53,112回	5,066回
身上事情お願い	9,201件	969件
提出教会	のべ1,426ヶ所 (全体の86%)	124ヶ所

## 立教167年 にをいがけ・おたすけ実修会

今年は、教祖120年祭へ3年千日と仕切つての実動2年目。真柱様は「私達一人ひとりの動きが年祭活動の成果を左右する大切な年である」と仰せ下さいました。

今年前期(4月~6月)のにをいがけ・おたすけ実修会を下記の要項にて、全教会で開催させて頂くことになっております。全部内が足並揃えて勇んでつとめさせて頂きましょう。

【実施期間】 平成16年4月~6月

【派遣要員】 1名

【内容】 教理勉強(おつとめの理)、にをいがけ実修、ねりあい(所要時間:約4時間)

### 4月開催分

R167.3.18現在

\*要員が不都合の場合、また、開催日等を変更する場合は、布教部・岡崎和夫へご連絡ください。

\*また、内容について他にご要望があれば、派遣要員と直接ご相談下さい。

実施日時	教会	派遣要員	実施日時	教会	派遣要員	実施日時	教会	派遣要員			
3日 10時	錦備	吉岡誠一郎	10日 13時	府中市	原公彦	12日 14時	上川邊	上原志郎			
	祭典後	笠尋		浅野明教	14時		皆部	山野弘実	14日 14時	照陽	中島誠治
4日 9時半	高屋	田中隆之	11日 8時	驛家	枝廣隆文	24日 10時	福東	黒瀬修式			
	11時	河佐		宮本泰徳	10時		眞府	矢田哲一		錦ヶ原	森本孝志
	13時	福勇		渡邊隆夫	13時		海松ヶ岡	武内正美	25日 13時	坪生	藤本イツ卫
		深安		内海安子			吸江	竹本和道		13時半	湯田原
	13時半	神邊		杉原博之			東水島	藤井正仁	29日 10時	稻倉	仙田公男
5日 13時	門司港	今川昌彦		高児島	藤井宣人	13時	多古浦	香取雅人			
	13時半	宇津戸	藤井保人	13時半	神驛		藤本晴司	30日 10時	稻讃	田中一矩	
8日 13時半	安那	佐々木滋郎	14時	眞金	藤井昭子						

## 年祭のご案内

日 時	4月22日午前11時より
場 所	笠岡大教会祖霊殿
年 祭	故笠岡大教会三代会長上原繁雄大人二十年祭 故笠岡大教会三代会長夫人上原くにゑ刀自 十年祭 故笠岡大教会四代会長上原郁雄大人 十年祭

※準備の都合もございますので、各教会よりの参拝者数を、大教会直轄教会を通して、3月29日までに、大教会会計室宛、ご報告ください。

### ◆直属ひのきしん五日隊 第3次隊

“ちばへの伏込みは、たすけの理づくり”

- 【期 間】 4月1日(木)～5日(月)  
 【割 当】 直轄1 = 4名、直轄2 = 3名、福 山 = 3名、  
 高 屋 = 4名、島 根 = 3名、上・府 = 3名。  
 【参加御供】 3,000円

### ◆教祖ご誕生祭 詰所 受け入れ ひのきしん

- 【期 間】 4月17日(土)正午～20日(火)正午まで  
 【割 当】 直轄1 = 1名、直轄2 = 1名、福 山 = 1名、  
 高 屋 = 1名、島 根 = 1名、上・府 = 1名。  
 ※心身共に健康な方をお願いいたします。

### ◆おかえり講話

- 【日 時】 4月17日・18日 とともに午後7時より  
 【場 所】 笠岡詰所  
 【講 師】 17日 宇 恵 義 昭 先生(予定)  
 18日 田 口 美代子 先生

### ◆第86回 天理教婦人会総会

- 【期 日】 4月19日(月)  
 【式 典】 午前9時30分  
 本部中庭、南・東・西 礼拝場前  
 【記念行事】 講演会(5会場)

## ◆学生会新入生歓迎会

- 【日 時】 4月25日(日) 午前10時～午後3時頃  
【会 場】 笠岡詰所  
【対 象】 おぢば管内の学生  
【内 容】 大教会長様お話・親睦会

※学生には、直接ハガキで案内いたしますが、こちらが把握出来ていない学生もおりますので教会からもお声がけをお願いします。

## ◆立教167年 全教一斉ひのきしんデー

- 【期 日】 5月16日(日) 実施

全教一斉ひのきしんデーは、ひのきしんに真実を尽くす一人ひとりが、日を合わせ、場所を定めて結集し、大きな力で地域に貢献しようというものです。欲を忘れ、ひたすら感謝の喜びに汗を流す姿は、自ずと人々にさわやかな印象を与え、良いにをいをかけていくことになるでしょう。さあ、一手一つに勇んでかからせて頂きましょう。

## ◆婦人会笠岡支部「ひまわり会 おつとめ大会」

- 【日 時】 5月23日(日) 午前9時 受 付  
9時30分 開 会

- 【場 所】 笠岡大教会神殿

- 【内 容】 午前部

十二下り 総立ちてをどりまなび  
支部長様 おはなし

昼 食

午後部(12時30分より)

講 話 早 樫 一 男 先生

臨床心理士

京都府 知的障害者 更生相談所 所長補佐

ファミリーセラピスト

- 【対 象】 26才～40才位の女性

- 【参加御供】 500円

※扇は各自でご持参ください。

◆各行事に参加ご希望の方は、  
各ブロックの担当者にお申し込みください

# 大教会だより

## ◎第七五二期修養科修了者

立教167年2月27日修了  
 引野 谷屋賢三  
 稲倉 藤井 彬  
 雲東 米原 豊  
 鶴真 延原 光生  
 高屋 谷本 倫子  
 明石市 杉原 智子  
 亀田山 浜田 たつ子

## ◎本部食堂ひのきしん

自 立教167年2月16日  
 至 立教167年2月29日  
 福東 中村 佳弘

## ◎第七五五期修養科

自 立教167年3月1日  
 至 立教167年5月27日

### \* 養掛

三ヶ月間 西江昌直  
 (金浦分教会長)  
 一ヶ月目 原 公彦  
 (芦常分教会長)  
 二ヶ月目 藤本基喜

(惠陽分教会長)  
 田中 隆之  
 (福山分教会長)

## ◆訂正とお詫び

『かさおか』第43巻第2号(立教167年2月21日発行)に掲載された「大教会だより」の「◎直属ひのきしん五日隊」の期間が間違っておりまして、左の通り訂正し、お詫び申し上げます。

自 立教167年1月27日  
 至 立教167年1月31日

# 討報

## 村川秀夫氏

大江橋分教会前会長  
 三月四日出直されました。  
 享年 七十一才

## 岡崎輝夫氏

大教会幹部承事  
 呉照分教会前会長  
 三月十日出直されました。  
 享年 七十六才



とある地方競馬場。本日の最終レースは「エイ争奪牡馬選抜オープン・距離無制限」。

馬場は常に整備されているが、芝あり土ありのアップダウンの繰り返し、更には時ならぬ強風にも見まわれ馬泣かせ。だが、毎回珍レースが展開され同競馬場の名物。各地から選抜された迷馬8頭がエイ(笠岡港産)を求めて捧腹絶倒のバトルを繰り広げる。

出走馬と下馬評は次の通り。  
 (ワールドアザエボーイ)百戦錬磨の最長老馬。好レースか愚レースにするかの要馬。最近パワー下降気味。キョセイして「ボーイ」から「ガール」に名を変えるかーと馬主。「するならしてみー」と強気の当馬。

(シンイチシンボリー)どうもコンピューターを背負った馬らしい。何事も表情変える事なく着実にこなす不言実行馬。休場日は種馬としても活躍。スタミナ配分に留意。(チュウソクワールドパイ)外国での調教経験があり、国際派の新進鋭馬。ジョッキ次第では有望株。ゴール前のひと叩き、期待したいが腹回りの肉、少々気になる。

(トーフクザンプレス)早朝調教はもとより日々のトレーニングに余念のない昼夜兼行馬。直向な努力をかわれ四月頃より中央競馬出走の噂あり。朝が早いためレース中の居眠りが心配。

(ブラックサトールホマレ)センスあるレース運びは、通もうならせる斬新奇抜馬。ダンディに煙を漂わせる姿、女性ファンの心をゲット。馬力維持のため煙はほどほどに。(ハワイトマウンテンキサ)育ちの良さか?土地柄か?清く正しく美しい(少々色黒)濃厚篤実馬。時々、養殖用のマムシをつまみ食いしているらしく、ムチが入ってからの鼻血、レースに影響なき事を祈る。

(ストロングヒコイチ)前走馬のシッポを噛ってでも前に出て行く大胆不敵馬。寒さ厳しき中で培った挫けない、諦めない姿勢は競走馬の鏡。その勇姿、時には見せて。(オールアンナジョーダン)レースに役立たない雑学を好み、ポリシーも強調性もなく、とに角、つかみ所のない二股膏葉馬。思考力、視力低下が激しく、コースを間違えずにゴールまで辿り着く事が出来るか。

× × × × ×  
 発走までまだ少々時間がある。勝利の女神はどの馬上に微笑むか。否、その前に、海千山千の各迷馬、素直にゲートインするか、それが大きな問題だー。